

今年の夏は、日本にある全ての原子力発電所が停止して、関西中心に多くのエリアで電力不足が予測されているので、日本全国で相応な節電が求められる状況になることと思います。ネオン消灯、店内照明の間引き、エアコン設定温度の調節、輪番休業など、昨年と同様に節電に努力することが要求されることは必須でしょう。各店舗が節電に取り組み、節電目標を達成したとしても、アンチパチンコ派に節電のスケープゴートにされて、パチンコ業界はパッシングを受ける可能性が高いと思います。それを防ぐためにも、今こそ業界

一丸となって、目標に向かって足並みを揃えて行動することが重要になると思います。「業界一丸」というのは、この業界では不可能なんでしょうか？ 今年こそ「業界一丸」が実現されることを願っております。

### 「赤ドン雅」が 減ったと思ったら

### 「ミリオン」被害甚大

前号で事態の終息を願ったエレコ「赤ドン雅」とミズホ「ミリオンゴッド」神々の系譜」のゴトについてですが、「赤ドン雅」に

関しては急速に撤去や低貸しコーナーへの移設が進み、その被害報告は劇的に減少したのですが、「ミリオンゴッド」に関してはゴールデンウィーク期間中には全国的に被害が多発し、終息するどころではなく、その後も新たなゴト手口での被害が相次いでおり、その被害は甚大なものになっています。

前号でお伝えしたのはミズホ「ミリオンゴッド」神々の系譜」の電磁波ゴトと精算ボタンを取り外してのセルゴトでしたが、4月末に新たなゴト手口として犯行が確認されたのが、不正セレクトボタ

ンに付け替えてARTを誘発させるといったものでした。

### インカムで警戒の 報告していたら 不審客いつせい退去

4月末頃、札幌市近郊のあるホールでの出来事です。あるホールスタッフが、見慣れないお客様が次々と来店してきたことに気が付き、なんとなく怪しい雰囲気を感じて、次々と来店してきた4人の見慣れないお客様を意識してホール接客をしていました。最初はバラバラのコーナーで遊技していた4人が、徐々に「ミリオンゴッド」周辺に集まり、そのうちの1人が「ミリオンゴッド」に着席し遊技を開始しました。

そのホールスタッフさんは違う作業に入らなければならなかった為、しばらくの間、不審客から目を離してしまいました。作業が終わり、不審客が気になり「ミリオンゴッド」へ戻ってみるとARTに突入していたので、インカムを使用して警戒を強めてもらうように連絡をした。ところが、その直後「ミリオンゴッド」で遊技を

# ゴトに勝つ 高石隆一

## 1

### 「ミリオン」攻撃が全国で多発 新たにセレクトボタン狙いも



写真1 ミリオンゴッド 不正セレクトボタン 被害台に付いていた傷



写真2 ミリオンゴッド 不正セレクトボタン ボタンを抜き取っている瞬間



写真3 ミリオンゴッド 不正セレクトボタン

していた不審客は、ARTを残したまま突然退店してしまいました。それに続いて、残りの3人の不審客も次々と退店し、4人全員が近隣の施設に向かって歩いて行ったのです。状況的にインカムをきっかけに退店したので、近隣施設の駐車場の車内に残っていた仲間がインカムを傍受していて、店内にいる4人へメールで危険を知らせたものと推測されます。

## セレクトボタンに小さな傷あとで交換されたと判明

ホール側は、退店していった状況にあまりにも不審な点が多いので、すぐに遊技台のエラー履歴等を確認したところ、エラー情報履歴から「POWER UP」・「POWER DOWN」が数回、監視

履歴からは「POWER DOWN」が百回以上残されている状況でした。店舗から連絡を頂いた弊社の検査担当者が、閉店後に当該遊技台の検査を実施したところ、セレクトボタンの周辺に不審な傷が残されているのを発見し（写真1）、セレクトボタンを調べてみると改造された不正セレクトボタンに交換されていたということが判明しました。

その後、防犯カメラの映像を確認したところ、セレクトボタンを不正品に交換している仕草が映っており（写真2）、不正品に交換した後、遊技中にセレクトボタンを押している仕草が何度も映っており、その際にパネルが消灯している状況も確認出来ました。これらの状況から、この不正セレクトボタンを通常遊技中のリプレイに外れた時に押すことで内部

的にバグを発生させて、その回のゲーム履歴を無効にし、リプレイが揃うまでこれを繰り返すことによりARTの突入条件である4連続リプレイ以上を完成させるものと思われれます。

## ついてるはずのない銅版などが取り付けられて

また、ART中には、15枚役の黄7揃い以外を無効にして、ARTストック上乗せの条件である15枚役の黄7揃い5連続以上の状況をつくって、結果的に大量のメダルを詐取しているものと思われれます。この手口の場合、不正セレクトボタンに交換する際に、セレクトボタン周辺に傷が残されているケースが多いのですが、その傷もライトを当ててチェックしなければ判り難い薄い傷であったりするので、見逃すことの無いように注意してチェックしてください。

不正セレクトボタンに関しては、写真3を参照して頂ければ判る通り、本来ついていないはずの銅版などが取り付けられておりますので、セレクトボタンを取り外して確認

すれば一目瞭然です。で、万が一に備えてまずは一度安全点検確認を実施してください。

また、閉店後には、必ずエラー情報履歴と監視履歴のチェックを徹底してください。

※営業中にエラー情報履歴と監視履歴のチェックを実施する場合には、前号でお伝えした注意点を参照して、トラブルや風営法違反になるようなことの無いように注意してください。

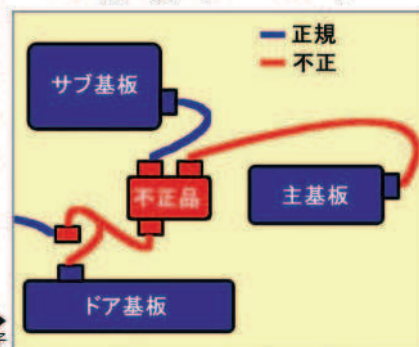


写真4 ミリオンゴッド ぶら下がり 取り付け時の様子

## ぶら下がりの情報カバールを開け確認したグのチェックも

そんな次から次へと新しいゴト手口による被害が相次いでいる「ミリオンゴッド」に、今度は「ぶら下がり」による被害が発生しているとの情報が入ってきました。

仕込まれていた「ぶら下がり」はジョイントタイプで（写真4）、「ぶら下がり」を接続させるのは、「主基板とサブ基板を繋ぐ配線の主基板側のコネクタ」（写真5）と

写真5 ミリオンゴッド ぶら下がり 狙われる配線①

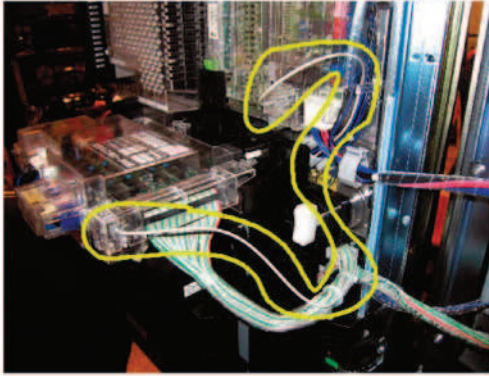
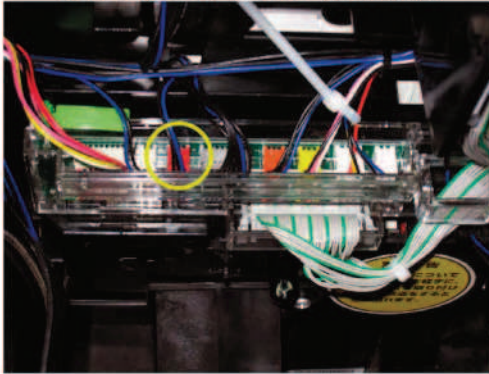


写真6 ミリオンゴッド ぶら下がり 狙われる配線②



「ドア基板の赤色のコネクタ及びその配線」(写真6)との情報です。「ぶら下がり」の不正内容については不明ですが、狙われる箇所は1つが主基板とサブ基板を繋ぐ配線であることから、ARTを誘発させる、もしくはARTのセット数上乘せをおこなうものと思われる。

※この「ぶら下がり」が仕込まれた台で、犯行が行われた場合にエラー情報履歴または監視履歴に「POWER DOWN」などの履歴が残るかどうかは現在のところ不明です。

「ぶら下がり」が仕込まれる箇所は、主基板やリール等が一体化したカバーで覆われているため、カバーを開けて確認しない限り「ぶら下がり」の発見は難しいものと思われれます。また、ドア基板内の赤色の配線を抜く際に、ドア基板を封印しているメーカー封印タグ

が破損させていたとの情報も入っており、今後仕込み場所や仕込み方法、形状などが進化する可能性もあります。まずは、「ぶら下がり」が仕込まれている可能性があるカバーを開けて安全確認をすること、ドア基板のメーカー封印タグのチェックを実施してください。

「ぶら下がり」の仕込み方法として、営業中の台開けが懸念されますので、当該遊技機付近を取り囲んでいる見慣れない集団がいるといった場合には特に注意をお願いします。



## 「ホー助ミニ」のドツキゴトは 台を揺らしてくる

そんな派手なパチスロのゴトの

影に隠れて、地味だけど密かに全国的に被害が発生しているパチンコの2つのゴト手口についてお伝え

したいと思います。

まずそのひとつめは、アムテックス「ホー助ミニ」を狙ったドツキゴトです。最

近の羽根物は振動センサーが標準装備されていますが、振動センサーが標準装備されていてもドツキゴトが行われるケースが多数確認されています。まさにアムテックス「ホー助ミニ」も振動センサーが標準装備されているにも関わらずドツキゴトの被害に遭っている状況なので、振動センサーをアテにするのではなく、スタッフの接客力(発見力)が重要になります。

「ホー助ミニ」を狙ったドツキゴトの手口は、遊技台を押す、叩くなどのドツキ行為ではなく、台枠を左右に揺らすというものです。この方法で遊技台が揺らされると、遊技機に標準装備されている振動センサーは反応が鈍く、店舗にドツキゴトがバレにくいというものなのです。

実際の犯行時の映像をチェックしてみたところ、入店後、当該遊



写真7 ホー助 どついている様子①



写真8 ホー助 どついている様子②

技機を数台揺らすなどして振動センサーの反応具合を調べた上で台の選定をしている様子と、通常中や時短中(ホー助CHANCEやチャレンジTIME)に回転体に玉が入った時に、「遊技台の右上部分を揺らす」(写真7)、「ガラスに手を添えながら遊技台の右上を揺らす」(写真8)という仕草が確認されており。

詳細は不明ですが、当該機種のゲーム性を踏まえると、台枠を左右に揺らすことでセンター役物内に入った玉になんらかの影響を与えて回転体のチャンス穴(デジタル始動口)への入賞を容易にさせているものと思われれます。今回のドツキゴトは振動センサーを突破(発報しにくく)するものとなっており、同社の系列メーカーの平和「ポチッと一発!おだてブタ」では、振動センサー発報時



◀写真9  
タイムボカン 磁石センサーが反応しないエリア

のエラー音を消音させるためにスピーカー部にフィルムを貼付するドックという手口も確認されています。「ホー助ミニ」と「ポチッと一発おだてブタ」は同一モデル（ルピナス枠）であることから、今後「ホー助ミニ」でもスピーカー部へのフィルム貼付事案が懸念されますのでご注意ください。

## 「タイムボカン」狙う 磁石ゴトの特徴は 弱い磁石が鈍い場所

パチンコのゴトふたつめは、アムテックス「CRタイムボカン」を狙った磁石ゴトです。羽根物の振動センサーと同様に、最近のほとんどのパチンコ台に磁石センサーが標準装備されており、アムテックス「CRタイムボカン」の磁石センサーが磁気を感じた場合、遊技の払い出しや役物開放などが停止され、電源を落とすまで「画面表示」と「警報音と磁石感知コメント」や「枠ランプの発光」

などが続くという徹底した対処が施されています。しかし、この徹底した対処も、磁石センサーが作動しなければ意味がありません。

「CRタイムボカン」を狙った磁石ゴトの手口は、磁石センサーがギリギリ反応しないくらいの磁力の弱い磁石でゴトを行うパターンと、磁石センサーの反応が鈍い場所でのみ磁石を使用するというパターンがあります。もちろん、磁力の弱い磁石を使用してセンサーの反応が鈍いエリアでゴトを行なった場合、磁石ゴトの犯行エリアが広くなります。

防犯カメラの映像から、盤面右上の2連の回転体付近に磁石を当てていることが確認されております。この映像を元に弊社で検証したところ、磁石センサーの反応が鈍いエリアがあることが判明しました（写真9）。このエリアで磁石を使って、通常ルートよりも大当り確率の高いスペシャルルートへ玉を誘導して出玉を詐取しているものと思われる。

当該遊技機を設置されているホールにおかれましては、【盤面を手をあてている】、【辺りをキヨロキヨロ警戒している】といった挙動

不審な人物に注意して、警戒及び監視強化をお願い致します。

## 新情報飛び込む パチスロ北斗の拳に セルが電磁波ゴト

またしても、この原稿の締め切り日に、「パチスロ北斗の拳・世紀末救世主伝説」がゴト被害に遭っているという新たなゴト情報が飛び込んできました。この原稿を書いている段階では、まだまだ不確定な情報が多いのですが、「パチスロ北斗の拳」が何らかのゴト被害に遭っていることは間違いないので、誤報を恐れずにお伝えしたいと思えます。

短時間でARTゲーム数が千ゲーム以上上乘せされていて、その状況が不審に感じたので防犯カメラの映像を確認したら、液晶の右上周辺に不自然に手をあてているのが見受けられたというような内容の情報在全国各地から一斉に入ってきました（5月14日現在4）。不審な出方をしている遊技台のスピーカーからは音が出なくなっていたり、音が小さくなっていたりするという事例報告も多数入って

きております。このスピーカー音に関する不具合は、電源を入れ直すことにより簡単に回復したとのことです。

これらの情報から、セルによるショートゴトか、電磁波ゴトの可能性が高いと推測されます。特にスピーカーの音が出なくなるが、電源の入れ直して簡単に直るというのは、サブ基板がゴトによって何らかの影響を受けた結果による現象と考えられます。

スピーカーの音が出ない台を遊技していた不審客に、遊技台の点検確認をする旨を伝えたと、メダルを放置して逃げ出したとの報告も入ってきているので、確実に何らかの不正が行われている状況です。この記事が皆様のお手元に届く頃には、手口も解明されて対策が施されていることを願って今回も締めたいと思えます。

■高石隆一 ■たかいしりゅういち  
警備会社の指導員、セキユリティー会社を経て2003年、有限会社ジャパン・セキユリティ・サービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務める。パチンコ産業界のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。「一期一会」が座右の銘。